

西夏語訳法華経覚え書き

吉池孝一

鳩摩羅什の漢訳法華経をさらに西夏語に訳した西夏語『法華経』木版折本が、ロシアの東洋学研究所に所蔵されている。資料の全体は未だ公刊されていないけれども、序品第1折より第3折まではカタログによって見る事ができる¹⁾。その中に出てくる音訳語について、わずかながら気の付いた点があるので紹介する。

西夏語の韻書(発音辞典)には平声と上声の二種の声調の区別がある。平声は高平調で上声は低昇調であったらしい²⁾。そこで、漢語の音訳にあたって二種の声調をどのように利用したかが気になった。漢語も西夏語も声調言語であるから、両者を対照することにより双方の言語の声調が当時どのようであったか分かるのではないかと考えたわけである。手始めに漢語の固有名詞の音訳について調べてみた。その結果はつぎのとおりである。

漢語訳は『法華経』(坂本幸男・岩本裕訳・岩波文庫)、西夏文字フォントは『今昔文字鏡』(文字鏡研究会)、()で括った西夏文字の情報は声調範疇と発音であり『夏漢字典』(李範文著)によった。なお漢字の後に付した()は漢語中古音の声調範疇である。

1. 阿(平)若(入)橋(平)陳(平)如(平)
 𐰽(声調不詳 a)𐰽(上 z'ja)𐰽(平 kjiw)𐰽(平 ts'hji)𐰽(平 z'ju)
2. 摩(平)訶(平)迦(平)葉(入)
 𐰽(上 mo)𐰽(上 xa)𐰽(平 kja)𐰽(平 s'ja)
3. 優(平)樓(平)頻(平)螺(平)迦(平)葉(入)
 𐰽(平・jiw)𐰽(平 lew)𐰽(平 phji)𐰽(平 lo)𐰽(平 kja)𐰽(平 s'ja)
4. 伽(平)耶(平)迦(平)葉(入)
 𐰽(上 kha)𐰽(平・ja)𐰽(平 kja)𐰽(平 s'ja)
5. 那(去)提(平)迦(平)葉(入)
 𐰽(平 no)𐰽(平 thji)𐰽(平 kja)𐰽(平 s'ja)
6. 舍(上,去)利(去)弗(入)
 𐰽(平 s'ja)𐰽(上 rjir)𐰽(上 gji)
7. 大(去)目(入)撻(平)連(平)
 𐰽(上 tha)𐰽(平 b_u)𐰽(上 khjā)𐰽(平 lj_{tj})
8. 摩(平)訶(平)迦(平)旃(平)延(平)
 𐰽(上 mo)𐰽(上 xa)𐰽(平 kja)𐰽(平 ts'ja)𐰽(平・ja)
9. 阿(平)菟(平)樓(平)駄(平)
 𐰽(声調不詳 a)𐰽(平 dew)𐰽(平 lew)𐰽(平 thow)
10. 劫(入)賓(平)那(去)
 𐰽(上 kja)𐰽(平 pji)𐰽(平 no)
11. 橋(平)梵(去)波(平)提(平)
 𐰽(平 kjiw)𐰽(平 xiwā)𐰽(平 po)𐰽(平 thji)
12. 離(平)波(平)多(平)
 𐰽(上 lji)𐰽(平 pho)𐰽(平 tow)
13. 畢(入)陵(平)伽(平)婆(平)蹉(平)
 𐰽(平 pji)𐰽(平 lj_{tj})𐰽(平 kja)𐰽(平 pho)𐰽(平 tshow)
14. 薄(入)拘(平)羅(平)
 𐰽(平 phu)𐰽(平 kjiw)𐰽(平 lo)
15. 摩(平)訶(平)拘(平)締(平)羅(平)
 𐰽(上 mo)𐰽(上 xa)𐰽(平 kjiw)𐰽(上 ts'ji)𐰽(平 lo)

16. 難(平)陀(平)
 𑖇(平 na)𑖇(平 thow)
17. 孫(平)陀(平)羅(平)難(平)陀(平)
 𑖇(平 swe)𑖇(平 thow)𑖇(平 lo)𑖇(平 na)𑖇(平 thow)
18. 富(去)樓(平)那(去)彌(平)多(平)羅(平)尼(平)子(上)
 𑖇(平 xu)𑖇(平 lew)𑖇(平 no)𑖇(平 mji)𑖇(上 to)𑖇(平 lo)𑖇(平 dz'ji (nji))
 𑖇(上 gji)
19. 須(平)菩(平)提(平)
 𑖇(上 sju)𑖇(平 phu)𑖇(平 thji)
20. 阿(平)難(平)
 𑖇(声調不詳・a)𑖇(平 na)
21. 羅(平)睺(不明)羅(平)
 𑖇(平 lo)𑖇(平 xew)𑖇(平 lo)

翻訳にあたってどの様な漢語底本を使用したか分からないけれども、通行の羅什訳本と大きく異なることはなかったとすると、漢語の声調と西夏語の声調とは直接の対応は無いように見える。どうも、漢語固有名音の音訳にあたり、西夏語では2つの声調の型をもって受け止めたようである。ひとつは上声に始まり平声で終わる型、今ひとつは平声のみの型である。例外は幾つかある。下表をご覧いただきたい。数字は上表左端の番号にあたる。

- ア. 上声→平声 : 2, 4, 8, 10, 12, 19
 平声→平声 : 3, 5, 11, 13, 14, 16, 17, 21
- イ. 𑖇(不詳)→上声→平声 : 1
 𑖇(不詳)→平声→平声 : 9
 𑖇(不詳)→平声 : 20
- ウ. その他(平声→上声) : 6, 7, 15, 18

アによると、平声の後に上声は続かない、語末は平声、という傾向を見て取ることができる。イは後で述べる。ウは平声の後に上声が続く例であり、四例ある。6をみると、舍利弗を𑖇(平 s'ja)𑖇(上 r'ji)𑖇(上 gji)と訳している。利(/l-/)には12 離波多の離を音訳した𑖇(上/l-)など適当な文字があるにもかかわらず子音が異なる𑖇(上/r-)を用いている。弗(/f-/)と𑖇(上 gji)は全く音が合わない。なお𑖇(上 gji)は子という意味である。これはサンスクリットの sārīputra (sārī はサギ、putra は子)³⁾ に類する語を直接もしくは間接的に訳したものに相違ない。舍利弗など常用の固有名にあっては一定の訳語が慣用として用いられたのであろう。18は富樓那彌多羅尼子で𑖇(平 xu)𑖇(平 lew)𑖇(平 no)𑖇(平 mji)𑖇(上 to)𑖇(平 lo)𑖇(平 dz'ji (nji))𑖇(上 gji)と訳している。𑖇(上 gji)は子という意味であり音訳ではない。6および18は特殊な訳語ということになる⁴⁾。結局、4例の内、今のところ説明が困難なものは7と15の二例ということになる。これより固有名の音訳にあって、①平声の後に上声は続かない②語末は平声で終わる、という音訳の傾向を序品第1折より第3折までの範囲内で認めることができる。このような傾向は、偶然に第1折より第3折までの間に一定の例が集中したことによるものなのか、あるいは全体に見られるものか、今後の西夏語『法華経』の発刊を待つしかない。

仮に、上記音訳の傾向が偶然ではないとしたならば、この傾向を利用してこれまで声調が不明とされてきた幾つかの西夏文字の声調を推定することができる。まず、声調不詳の文字を含むイの三例につき、「①平声の後に上声は続かない」「②語末は平声」という傾向に違反する部分は認められないということを確認する。次いで、𑖇(不詳)→上声→平声ということであるが、𑖇(不詳)→上声→平声という並びよりみて、①「平声の後に上声は続かない」という傾向を適用し、𑖇(不詳)→上声であったと推定する。他方の𑖇(不詳)→平声であるから平声・上声両者の可能性があり絞り込むことはできない。

他の音訳西夏語資料ではどのようなものであるか。経典の陀羅尼や一般名詞の音訳はどうであろうかなど課題は多い。

注

1) “*The Lotus Sutra and Its World :Buddhist Manuscripts of the Great Silk Road*” St.Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies,Russian Academy of Sciences/Institute of Oriental Philosophy,Tokyo,1998,p.24.

2) 荒川慎太郎 1999(「夏蔵対音資料からみた西夏語の声調」『言語学研究』17-18,京都大学言語学研究室)による。

3) 中村 元 1975(『仏教語大辞典』東京書籍)による。

4) なお本例とは直接の関連はないが経典の訳語について興味深い指摘がある。西田龍雄氏の「西夏語訳法華経について」(『東洋学術研究』41-2,2002;pp.1-11)によると、漢文経典からの訳本であっても統一された訳語が使われているわけではないらしく、『法華経』や『華嚴経』などの異なる音訳例が紹介されている。